

【里帰りしたような安心をくれる南部町のお母さん】



濱本 和子さん

・職業：美容師

（商工会女性部・豆腐作り・1ヶ月2回すこやか*で配食・月1回こども食堂・朝の登校時の地域の見守り隊…）

・出身：南部町法勝寺

・趣味：料理・籠編み

・南部町“いいね!”：生活しやすい、災害が少ない、自然が多い

*すこやか…南部町健康福祉センター

“毎日が楽しい”

その言葉がそのまま現れているように、濱本さんの笑顔は元気ハツラツとしていて柔らかい。

「今日は朝一から豆腐作りだけん。」

「今、“すこやか”で配食終えてきたところ。」

「明日はこども食堂があるけんね。」

と料理に関する予定が多いのだが、本業が美容師と聞いて驚くと、

「ほんと何が本業なんだかわかりゃせんわ。」と笑う。

濱本さんは南部町の法勝寺地区に生まれ育ち、高校では家庭科を専攻していた。

料理が好きなのは、高校時代から来ているのだそう。

お母さんもお祖母さんも美容師さんだったことで、自身も高校2年の時に通信教育で美容師を目指し、4年間で資格を取得した。

しかし、濱本さんは料理や美容師だけにとどまらず、籠編みもするし、和傘を折り紙で作って、新しい人に出会ったときにはプレゼントする。

以前は、絵手紙を書いていたし、水泳や卓球もしていたとのことで、そのアクティブさには驚かされる。

「新しいことが好きだけん！なんでもやってみるんよ！」

濱本さんがいつもエネルギッシュで“毎日楽しい”大きな理由は、ここにある。

大事にしていることは、“後ろは見ない前を見る。”



写真：

魚屋さんが来たよ～とお魚を持って来た濱本さんのご友人

“人を大切にしたら自分も大切にされる”

話の途中で、魚屋さんが町内を回って来たらしく、濱本さんの友人が魚を持って訪ねて来られた。

一方の濱本さんも、隣にあるお試し住宅兼地域交流スペース“えん処米や”に誰かが泊まると、朝ごはんを作って持って行ったり、お話しに行ったりしてすぐに来客と仲良くなれる。

濱本さんの周りには助けたり助けられたりという、人との繋がりが当たり前のように、ごく日常的にある。

「自分が幸せだけ、人を助けてあげたいと思うんよ。みんなが助けてくれるけん、困ったことなんてない。」

“人”を大事にすることは“自分”を大事にすることでもあるのだと。

また、濱本さんには人と関わる上で大切にしている言葉がある。

“気は長く 心は丸く 腹立てず 人は大きく 己は小さく”

会うのが初めてでも、ホッとさせてくれるような濱本さんの安心感や信頼は、これらの言葉を大事にしてきたからこそなのだろう。都会ではなかなか無いような人との関わり、人との繋がりがここにはある。

将来の夢を聞くと、「目の前に来ることをすることだわ。」とサラッと答える濱本さん。

今日も彼女の笑顔と元気な声が、南部町に響く。



渡邊舞（わたなべまい）/大阪府出身

南部町地域おこし協力隊

～取材者の一言～

単身で南部町に引っ越してきて、地域おこし協力隊として仕事を始めた私は、濱本さんには実はとってもお世話になっています。日々の何気ない会話も、「これ、あげるよ」と持って来てくれる優しさも、“知らない土地に来てめちゃんと誰かと繋がっている”という安心感をいつも感じさせてくれるのです。今回取材させて頂いたことで、濱本さんがいつも前向きで明るいこと、その姿勢に、学ぶところが沢山ありました！まさに、南部町のお母さん！！